













# お薬の飲み方について

専門医受診までに時間があり、2回目以降、複数回分を服用する方へ

## 【基本の薬の組合せ】

アイセントレス錠 400mg <sup>®</sup> (ラルテグラビルカリウム:RAL) 1回1錠、1日2回
デシコビ配合錠 HT <sup>®</sup> (テノホビルアラフエナミドフマル酸塩/エムリンビン:DVY (TAF/FTC)) 1回1錠、1日1回

※予防内服は、基本28日間内服する事となっているが、継続服用ならびに服薬する薬の組合せについては、専門医受診時に、専門医師と相談して決定できる。

	アイセントレス錠	デシコビ配合錠 HT
1回目  1回目は薬を受領後、 すぐに服用	1錠 	1錠 
2回目	1錠 	
3回目	1錠 	1錠 
4回目	1錠 	
5回目	1錠 	1錠 
6回目	1錠 	
7回目	1錠 	1錠 
8回目	1錠 	

8日目以降も  
専門医受診まで  
服用継続する

### 《服薬の注意点》

※お薬を受領後、すぐに1回目の薬を服用してください(重要)。

曝露から出来るだけ早く(2時間以内に内服することが好ましい)服用。

※2回目以降の服用は、概ね12時間間隔で服用下さい。

※食事に関係なく服用できます。

※アイセントレスは、マグネシウム、アルミニウムを含むサプリメント、健康食品や薬(胃腸薬、制酸剤や下剤の一部)と相互作用(吸収低下)があります。アイセントレスを服用前後6時間を避けて服用して下さい。

※妊娠の可能のある方、B型肝炎の既往、腎機能低下は必ず申し出て下さい。

### 《その他の注意点》

※受診連絡を取り、専門医を必ず受診して下さい。連絡先、連絡方法は、『熊本県針刺し切創・皮膚粘膜曝露後の抗HIV薬服用マニュアル』(熊本県ホームページからも参照可)を確認ください。

### 《服用2週間以内に発現しやすい副作用》

#### ・発疹

軽度の発疹は服用継続可能です。

発熱を伴うあるいは悪化するようであれば、自己中断せず、各施設の医療事故担当医に御連絡下さい。

#### ・消化器症状(下痢・軟便、便秘、吐き気、悪心、腹部膨満感、お腹にガスがたまる等)

下痢や吐き気がひどく、日常生活に支障がある、食事ができない、嘔吐を繰り返す場合は、各施設の医療事故担当医に御連絡ください。整腸剤や下痢止め、制吐薬の使用で軽減する場合があります。

#### ・頭痛(数日にわたり持続する事は少ない)

#### ・疲労感 ・倦怠感

### 《まれに起こる可能性のある副作用》

・めまい(ふわっとするような感じ等) ・筋肉痛、脱力感 ・異常な夢 ・不眠、傾眠

### 《重篤な副作用》

・腎不全又は重度腎機能障害 ・乳酸アシドーシス ・皮膚粘膜眼症候群 ・薬剤性過敏症候群 ・過敏症等

## 【内服前の確認について】

内服開始前には、最低限以下の確認が必要とされている。専門医受診まで時間があり、2回目以降も服用継続する場合には、提出された【抗 HIV 薬提供依頼書】も参考とし、以下の該当項目がないかを確認の上、被曝露当事者が理解同意して服薬を継続する。

### 女性では妊娠かつ妊娠の可能性の有無

デシコビ配合錠：妊娠 14 週以降の妊婦への安全性は確立している。妊娠・出産への影響は少ないとされているが、妊娠 14 週未満の安全性は厳密には確立されていない。

### 慢性 B 型肝炎の有無

デシコビ配合錠は、抗 HBV 効果を併せ持つため、予防内服終了後に HBV のリバウンドを生じうる可能性があり、HBV 感染の既往（HBV キャリアおよび既往感染者）を考慮した服薬が必要。また、治療中の場合、①服用中の B 型肝炎治療薬との相互作用、②服用中の B 型肝炎治療薬と同成分薬剤の重複服用等について確認し、治療中の主治医に相談を必要とする。

### 腎機能に問題の有無

腎機能に問題のある場合は、専門医との相談が必要である。すぐに連絡がつかない場合には、1 回目の服用可能。デシコビ配合錠の投与中止基準は、クレアチニンクリアランスが 30 mL/min 未満の場合となっている。アイセントレス錠単剤での予防投与は基本実施されていないため専門医に相談する。

2023 年 3 月作成